

## 様式第6号(第2条関係)

## 委員会等の会議録

1	会議名	第4回愛南町海業推進会議	
2	議題	愛南町の海業の推進について	
3	開催日時	令和6年1月31日(水) 9時30分から12時00分まで	
4	開催場所	愛南町役場本庁3階 大会議室	
5	傍聴者数	2人	
出席者			
6	委員氏名	浦崎 慎太郎、大石 常也、大野 甲子彦、大森 安洋、 凝地 世矢、後藤 理恵、佐伯 謙、澤近 圭亮、関根 麻里、 田中 純樹、田中 翔、永元 将博、濱 哲也、浜辺 隆博、 深堀 毅、前田 眞、森 裕之、山本 正文、ヤング 亜由美、 若松 隆仁	
7	担当所属 担当職員 (職・氏名)	所属名	水産課海業推進室
			室長 浜辺 隆博 室長補佐 清水 貴光 係長 廣瀬 琢磨、清水 陽介 主査 吉原 勇作 主事 本田 美紀、賀屋 啓太、中村 一喜
8	その他の 出席職員	所属名	
		出席職員 (職・氏名)	
議事内容(次ページから)			

発言者	発言内容
清水室長補佐	<p>定刻になりましたので、ただ今から第4回愛南町海業推進会議を開会させていただきます。開会に当たりまして、水産課課長濱哲也から御挨拶を申し上げます。</p>
濱課長	<p>(開会挨拶)</p>
清水室長補佐	<p>それでは次第に沿って進めさせていただきます。これから第一部に移ります。ここから先は懇話会の規則に従いまして、座長を水産課長の濱に引き継ぎます。</p>
濱座長	<p>本日もたくさんの委員の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。それでは第3回海業推進会議の振り返り等について海業推進室の浜辺から説明させていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
浜辺委員	<p>お手元の資料に沿って説明します。 (以下説明概要)</p> <p><b>【第3回の振り返りについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回では、第一部で第2回の振り返り及び先進的の海洋センター整備事業や海業推進室のSNS開設の説明、1月20日開催の水産フォーラムについて案内しました。また、田中(純)委員から10月27日に開催された情報交換会の状況、大野委員から運営委員会の状況について報告がありました。</li> <li>・次に、価値総合研究所から海業関連産業の域内取引構造の現状と課題について発表がありました。その中で地域経済の循環のためには何をやるのかに加えて誰がやるかを定めること、地元の資本、資源、人材で取り組むことが重要である旨の説明がありました。</li> <li>・第二部では、水産庁が公表した海業の取組事例について三つ紹介しました。その後、2グループに分かれてこれまで出てきたアイデアを時間軸と重要度の二つの評価軸を用いて九つのカテゴリーに評価する議論を行いました。</li> </ul> <p><b>【第3回会合以降の取組の説明】</b> (資料を基に説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛南漁業協同組合、家串真珠母貝生産組合、愛媛大学、愛南町役場の4者が中心となり立ち上げたプロジェクト「未来に</li> </ul>

発言者	発言内容
大野委員	<p>繋ごう！真珠のふるさと愛南町～幹縄筏が生み出すブルーカーボンクレジット～」が12月11日にJブルークレジットとして認証され、12月22日にプレスリリースを行いました。愛南町で盛んな真珠母貝養殖業が脱炭素化社会の構築や地球温暖化の防止にも貢献していることが認められたと考えています。今後、真珠母貝養殖で吸収した二酸化炭素量を購入したい民間企業の方が現れれば、少額ですが現金化されます。この現金は、水産人材育成や海業の取組に活用していきたいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月20日に、水産フォーラムを開催しました。「森は海の恋人」という言葉を提唱された島山氏を始め3名の講師に御来場いただき、愛南町が未来に向けてどのようにしていくべきか、担い手を育成するために重要な哲学等について御紹介いただきました。</li> </ul> <p>第3回会合以降、2回運営委員会を開催しました。こちらについて、大野委員から御報告いただきます。</p> <p>私が作成した御手元の資料に沿って説明します。 (以降、資料に沿って説明。以下ポイントを記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1枚目は、運営委員会で議論した内容をイメージ化したものです。「海業推進でローカルポジティブを目指す」ことを考えています。まず、この図の空母が海業推進会議でその船の行く先を決める羅針盤がグランドデザインに当たります。この空母は愛南町という海に浮かんでおり、そこで離発着していく飛行機が経済活動です。これらの活動は、単なる経済活動ではなく教育環境や環境保全、移住推進、地域活性化、健康増進など地域の魅力を向上させる「ローカルポジティブ」で地域経済循環率を上昇させ、地域の幸福度を上げることを目指します。これが、前回までの会議で言われてきた「バケツに水を注ぐ活動」と「バケツの穴を塞ぐ活動」に当たると考えています。</li> <li>・次にローカルポジティブについて詳しく説明します。この言葉は、全員に共通認識を持っていただくために考案した言葉です。経済循環率が上がることは地域経済が自立していることであると前回までの会議で勉強させていただきました。それだけではなく経済では計り知れない街の幸福度が相互に噛み合い、好循環していくことがローカルポジティブだと考えています。運営委員会では、グランドデザイン作成に当たり、</li> </ul>

発言者	発言内容
	<p>ローカルポジティブを目指すコミュニティー作りが重要だという議論になりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• また、グランドデザインは、空母が進む方向を指し示す羅針盤であり、そこから飛び立つ飛行機（＝様々なプロジェクト）が目指すものが何かを全ての方が分かりやすい形で示すものだと考えています。</li> <li>• 次の表は、第3回会議で分類したアイデアの中でグランドデザインに盛り込んでも良いと思うプロジェクトを抜粋したものです。スピード感や難易度を判断材料に重要度の高いものを示しています。その中でも「バケツの水を注ぐプロジェクト」は緑、「バケツの穴を塞ぐプロジェクト」は青の飛行機マークで分類しています。その両方を兼ねるようなプロジェクトもありました。また、これらとは全く関係なくすぐに実行する必要があるプライスレスなプロジェクトは黄色の飛行機で示しています。グランドデザインでは、この表のように見た人がそれぞれのプロジェクトがどのような方向に進んでいるのか分かりやすいように紹介していきたいと考えています。この他にもアイデアは多くあり、資料8でまとめています。</li> <li>• 次に、バケツの水を満たすということがどういうことかについて説明します。これは、プロジェクトをされる方が「ワクワクしているか」、「稼ぎ(持続性)があるか」、「社会貢献しているか」だと考えています。これらを満たした状態の活動を継続すれば、「バケツを注ぐ活動」や「バケツの穴を塞ぐ活動」となり、バケツが満たされていくと考えています。これは、地域力をアップさせることに繋がります。</li> <li>• 次に、ホームページに公開されているRESASというツールを使用し、松山市、四国中央市、新居浜市、今治市の四つの地域について地域経済循環率を調べました。その結果、松山市で89%、四国中央市が100%、新居浜市が117%、今治市が111%と地域循環率が高い結果でした。次のページでは、東京都千代田区、愛媛県全域、宿毛市、四万十市、宇和島市の地域経済循環率を示しています。東京千代田区では633%、愛媛県全域は91%、愛南町周辺地域である宿毛市は85%、四万十市が82%、宇和島市が75%です。次のページでは、ホームページに公表されていた「街の幸福度&amp;住み続けたい街ランキング2023」の四国版の結果を示しています。街の幸福度の1位は徳島県板野町、2位は伊予市です。また、住み続けたい街の</li> </ul>

発言者	発言内容
	<p>1位が香川県まんのう町、2位が西条市です。これら上位の地域のうち、地域経済循環率が100%を上回る地域は板野町のみでした。これらのことから満足度が高い地域でも、地域経済循環率が高くないため、地域経済循環率を高めることを意識しすぎる必要もないと考えられます。ただし、街の幸福度と地域経済循環率の関係性はあります。これらを踏まえ、街の幸福度と地域経済循環率の両方を上げていく考え方がローカルポジティブであり、これを広げていくことが必要だと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 次のページでは、ローカルポジティブについてまとめています。地域内で活躍する様々な団体や個人などの活動体が「ワクワクしている」、「地域に貢献している」、「稼げている」こと全てを満たしている状態で活動がより活発で継続的になっていく好循環がローカルポジティブです。ローカルポジティブの登場人物として地域の明るい未来を目指ためのグランドデザイン(羅針盤)を持つ海業推進会議(空母船)があり、そこに離発着する活動体(飛行機)があると御想像ください。これらの登場人物を経由し、繋がっていくために海業推進会議が存在すれば良いと考えています。</li> <li>• 次のページでは、「ワクワク戦国時代」と書かせていただいています。現在は、都心集中型よりも地域から名のりを上げてワクワク度で競い合い更に大きくなっていく企業が出現し、様々な社会貢献ができる時代となりました。それを応援する、やりたい気持ちがある人をたくさん見つけて発掘する、そして挑戦させる勇気を振り絞ってもらえるような雰囲気づくりができる組織や会議があるような町にしていきたいと考えています。また、また愛南町役場という行政は、世界とつながり、影響を受けたり与えたりする「海」のような存在だと考えています。役場には、こちらから波を起こすくらいの気概を持ってこの海業に絡んでいただきたいと考えています。</li> <li>• 最後のページでは、とにかくお互いを知ることが重要だということを書いています。私は映像制作をしています。現状それだけでは生活できないのが正直なところです。そのため、様々な活動に顔を出し、いろいろな役をしています。私のような人をたくさん集めていき、知り合うことで、様々なプロジェクトが効率的に進むのではないかという想いでローカルポジティブという言葉をつくり上げました。そのため、より</li> </ul>

発言者	発言内容
	<p>多くの方とローカルポジティブの場を広げていく体制や仕組み作りが必要だという結論になりました。</p>
<p>浜辺委員</p>	<p>ありがとうございました。運営委員会の中で、仕組みや体制作りの話がありました。これに関して佐伯委員に資料を作成していただきましたので、御紹介していただきます。</p>
<p>佐伯委員</p>	<p>運営委員会で話が出ました法人化について、様々な形態がありますので御紹介させていただきます。法人化するに当たり、それぞれメリットデメリットがあります。重要な部分は設立要件です。NPO法人や一般社団法人は、通常よく使用される法人格です。例えばNPO法人だと社員が10人以上常時必要であり、一般社団法人は社員が2名以上必要です。また、税制面においても所得に対して税金がかかります。まずはこのような違いを見極める必要がありますが、資料の備考欄にどの組織がいいかを簡潔にまとめています。この中で通常使用できるのは、NPO法人あるいは一般社団法人が多いです。内容によっては株式会社を立ち上げて収益を上げる方法もあります。私が所属する伊予銀行の中での取組事例では、目的や規模もある程度確定している中で一般社団法人化されている団体も存在します。関係者から話を伺うと、通常は任意団体から始め、その規模や目的で法人化を決めた方がいいとアドバイスを受けています。今後また動きがありましたら、随時御報告します。</p>
<p>浜辺委員</p>	<p>ありがとうございました。第3回以降の取組については以上です。</p>
<p>濱座長</p>	<p>ありがとうございました。御質問は一部の最後に受け付けます。</p> <p>次に「海業振興の取組イメージ」について、水産庁の委託事業者である株式会社価値総合研究所から発表していただきます。よろしくお願ひします。</p>
<p>鴨志田氏</p>	<p>価値総合研究所の鴨志田です。本日は、「愛南町の海業の方向性」について説明させていただきます。</p> <p>(以降、資料に沿って説明。以下ポイントを記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回、愛南町は域内の所得循環構造が構築されておらず、地</li> </ul>

発言者	発言内容
	<p>域住民所得は全国平均よりも低いことが課題であり、愛南町の最大の強みである水産業と町内の各産業との域内取引を活発化することで、地域の所得が向上するいわゆる「町内産業の総海業化」が重要だという話をしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほど大野委員から「地域内の循環率を高めることだけが重要ではない」という話がありました。地域経済循環の中での指標として重要なのは一人当たりの住民の所得です。所得を高めるには域外に流失しているお金を減らすことが必要です。愛南町の場合、特に食料品加工や食料品製造業、卸売業が域外に依存している産業です。これらの産業の取引を域内で活発化することが愛南町の総海業化の近道だと考えています。</li> <li>・次に、総海業化に向けた海業の取組イメージについて3点紹介します。1点目が漁港内・漁港周辺での地域参加型の水産加工施設整備です。大手企業の食料品加工の工場等を誘致するのではなく、地域の中で付加価値を付けた加工品を製造し、販売する施設を提案します。例として真珠や貝を使用したアクセサリーや未利用魚を活用した加工食品、養殖餌料の製造等が考えられます。2点目が町内の海業関連産業をつなぐ地域商社の設立です。これは、大手商社とは異なり、地域の資源や地域の人材を活用し、町内の各種産業から仕入れし、商品開発のほかブランディングや販路開拓等を行います。近年、DMOという形で全国各地に設立されています。観光も一つの商品として地域商社の中に盛り込むことで、町内の様々な業種がつながり、高付加価値化が期待できると考えています。3点目が養殖業や漁業とコラボした観光・研修コンテンツの開発・販売です。養殖や漁業等の体験メニュー化や漁業と漁港周辺の観光コンテンツを繋げた観光商品の開発・販売を行います。観光は、様々なアイデアとつながりやすく地域資源を活用しやすいため、幅広いターゲット層を対象にツアーを展開することで漁業従事者の所得向上、雇用機会の向上、観光消費の増加等が期待できます。</li> <li>・4、5ページでは、愛南町に関連しそうな他地域の事例を紹介しています。細かい説明は省略しますが、住民が知恵を集めてコミュニティビジネスの要素を含めながら取り組まれている事例です。これらの真似をするのではなく、愛南町で置き換えたらどのような可能性があるのかという観点で御覧く</li> </ul>

発言者	発言内容
<p>濱座長</p>	<p>ださい。</p> <p>ありがとうございました。ここまでで質問等がありましたらお受けします。ないようですので、第一部を終了します。</p> <p>(休憩)</p>
<p>濱座長</p>	<p>それでは第二部の「グランドデザインについて」を始めます。進め方とグランドデザインの骨子案について海業推進室の浜辺から説明していただきます。</p>
<p>浜辺委員</p>	<p>第二部については二つのパートに分けて議論を行います。まず、資料の説明をします。</p> <p>資料6は、事務局で作成したグランドデザインの骨子案についての概要です。コンセプトや構成、各プロジェクト、スケジュール案について示しています。コンセプトは、4点あります。1点目が役場のような文章型ではなく、見た目美しく印象的な啓発型の仕上がりにしていくことです。2点目が推進会議の委員一同から町民全員へのメッセージとして伝えるということです。3点目が様々な取組を包含でき、「なりたい未来」への取組を後押しすることです。4点目が視覚的に分かりやすいデザインとし、伝わりやすい言葉を使用することです。また、一番下に「策定して終わりではなく、海業ととらえられるプロジェクト・活動を進めるとともに、継続的な検討と改善を行うこと」と記載しています。これが最も重要であると考えています。これらを踏まえてグループワークで御議論ください。議論の内容を取り込み、最終的な案としてお示ししようと考えています。</p> <p>次に構成についてです。こちらは資料7でイメージ図を示しています。まず、1枚目にスローガンを掲げます。これに加え、スローガンについて説明するようなエッセイも載せたいと考えています。また、「地域の宝＝地域資源の今と未来のキーワード」の欄では、前回議論いただいたアイデアを「体験」、「担い手」、「空間」として類型化しました。また、美しい環境がこれらを支える土台になれば実現しないことを示しています。これら地域資源を使用したものをつなぎ合わせ、つむいでいくストーリーが海業であるというメッセージを伝えていきたいと考えています。2枚目では、スローガンを一番上に記載し、文字や図</p>

発言者	発言内容
	<p>表、イメージ写真を駆使して印象的に伝えていきたいと考えています。3枚目以降では、具体的なプロジェクトについて、載せていきたいと考えています。これはあくまで事務局で作成した例示です。今後、海業推進会議や運営委員会等で議論することで具体化していきます。</p> <p>次に、各プロジェクトについてです。こちらは、資料8で、第3回会議時に評価番号を付した想いやアイデアをまとめています。グランドデザインには1か2と評価されたアイデアを中心に例示として記載していきたいと考えています。その際の考え方として、資料7で示した「体験」、「担い手」、「空間」のキーワードの中でどういうものが特に重要なのかを示しています。また、バケツ理論にも基づいて記載もしていきたいと考えています。第5回会議までに運営委員会を3回程度開催し、これらの内容を具体化していきます。そして、最終第5回で案を示した際に議論していただき、その意見を踏まえて修正したものを公表します。</p> <p>次に、議論の進め方について説明します。前半では2グループに分かれてグランドデザインの骨子案について議論していただきます。グループワークでは、それぞれが思うグランドデザインのコンセプトや構成等について発言していただきます。その際、重要なキーワードも発言してください。発言内容は進行役の大野委員、前田委員にホワイトボードへ記録していただきます。この議論は30分を行います。その後、全体討論を30分を行います。グループワークの内容を進行役の大野委員、前田委員に発表していただいた後その内容について更に議論します。この議論を通じて今回の会議では、委員全体で共通認識を作りたいと考えています。私からは以上です。</p> <p>(グループワークを実施(30分間))</p>
浜辺委員	<p>それでは、時間になりましたので、全体討論に移ります。まず、それぞれのグループワークの内容を発表していただきます。Aグループの前田委員よろしくお願いします。</p>
前田委員	<p>Aグループでは、まず、キーワードについて議論しました。海的环境、ゴミ、美しい海川森が循環・持続していく必要があり、それらを象徴するのが国立公園だという意見が出ました。</p>

発言者	発言内容
	<p>それに加えて、様々な人・業種間のつながりが重要といった意見が出たほか、窓からの見える夕日は愛南町の特徴だという意見も出ました。このような身近なものを再評価していけたらどうかという議論になりました。</p> <p>次にコンセプトについて議論しました。まず、大自然など愛南町を自慢できるもの、いわゆる「シビックプライド」を呼び起こすようなものを大人も子供も関わることができる形で実施したいという意見が出ました。また、主役は全員であること、自分事化させることを伝えていくことも意見として出ました。さらに、今回実施することに対しての規制緩和があれば良いという意見やお金を稼ぐなどの共感できる目的があれば、様々な人と繋がることのできるコラボレーションもあれば良いという意見がでました。最後に、失敗しても大丈夫だということをきちんと伝えることが重要だという意見がありました。何を行っても海業であるため、屁理屈でも良いので考えていく必要があり、そのためには曖昧さも尊重することが重要です。今後、様々なプロジェクトの中から絞り込む必要がありますが、様々なことを包含する曖昧な表現のようなものが重要だという議論になりました。</p> <p>次に構成について議論しました。まず、基本的には文字の羅列は避け、世代別のインタビューや前回募集した作文を活用した絵や動画の報告書を作成し、期限までに完成させるのではなく、加除式で作成していけば良いのではないかという議論になりました。また、海業イメージソングのようなものを自分たちで作曲するという意見も出ました。これらどれかではなく、全てを組み合わせたいという議論になりました。</p> <p>次に各プロジェクトについて議論しました。ぎょしょく教育や生態系のようなものを象徴するプロジェクトについて意見がありました。また、高校生や協力隊など多様な人々にシビックプライドに関するインタビューを行い、人紹介プロジェクトとして紹介する見せ方も良いのではないかという意見が出ました。100人いれば100様のプロジェクトがあることを見せていきたいと考えています。</p> <p>最後に、課題・要検討事項について議論しました。まず、誰がやるのが今後の課題として挙がりました。また、シビックプライドをどう持たせるか、どう感じてもらうのが重要だという議論になりました。そのためには、外部の人との関りが必要</p>

発言者	発言内容
浜辺委員	<p>だと考えています。また、インタビューでの個人情報の取扱いやどこまでやるのかというスケジュール感も要検討事項であるという議論になりました。以上です。</p> <p>ありがとうございました。続いてBグループの大野委員お願いします。</p>
大野委員	<p>Bグループは時間が足りず、構成と各プロジェクトについては議論することができませんでした。まず、コンセプトについて委員一人ずつに意見をいただきました。その中で、稼ぐこと、環境保全で地域資源を守っていくことが非常に重要だという議論になりました。そして愛南はもちろん近隣や都会の子供たちを巻き込み、子供たちがどのような未来を描いて働き、どう満足できるのかが海業を通して伝えることも重要だという議論になりました。具体的には、漁業等の一次産業の実態として3K「きつい」、「汚い」、「危険」により長続きしません。また、週休二日制でないだけで就職の選択肢から外れる時代だという話もありました。しかし、そうではない働き方もあることを知る必要があるのではないかという議論になりました。それに加えて、知らないことが多すぎるので様々なことを知ってもらうことが意見としてありました。特に地域の子供が愛南町の魅力を知らないため、田中(翔)委員のように愛南の海に惚れたので愛南町に来ているという方の言葉等で魅力を伝えることが重要ではないかという議論になりました。</p> <p>次にキーワードについて議論を行いました。地域の声を知ることや愛南でしか食べることができないトップブランドやガストロノミーのような仕組み作りがあれば良いのではないかという意見がありました。また、インクルージョンしていくことも重要だという意見がありました。これは、とにかく排除しないということです。農産物や水産物も規格外だといえども廃棄しない、人々を巻き込んでいくことなど、人や物を無駄なく活用していくことが重要だという意見でした。またワークライフバランスという意見もありました。働き方も多様化し、様々な考え方があり、子供たちも多様化している中で、チャレンジできる要素があり、ワクワクしながら稼ぐことができる仕組み作りが重要であるという議論になりました。以上です。</p>

発言者	発言内容
浜辺委員	<p>ありがとうございました。次に、私が司会進行して全体討論を行います。大野委員の発表の中で何事も実践するという話がありましたが、例えば有名な企業であるサントリーが「やってみなはれの精神」を社訓としているほか、イトーヨーカドーの創業者の鈴木氏は、「朝令暮改のすすめ」という本を書かれています。朝に命令を出したことを夕方に変えるという意味ですが、本当に良いと考えることであれば変えて実践してみるということです。何か新しいことを始めるに当たり非常に重要な考え方だと思います。今日のテーマは、グランドデザインの骨子案について議論していただく予定でしたが、海業のコンセプトの話題が多くありましたので、そちらの議論を展開していこうと思います。</p> <p>まずは先ほどのグループ討論に関する質問や何か発言したい方はいますか。田中(純)委員よろしくお願ひします。</p>
田中(純)委員	<p>ヤング委員とも話していましたが、私の本音はここに参加している人でもモチベーションは非常に高いわけではないと感じています。もちろんそう考えられている方もいるかもしれませんが、私がそう感じる理由は、皆さんの覚悟にあります。この町が置かれている状況は、あまり芳しくありません。今回グランドデザインの骨子案を決定することは、町を良くすることに繋がりますが、そこに最終的に至るまでのワクワク以上の覚悟が必要だと考えています。先ほど海業のグランドデザインを空母に例えて説明されていましたが、私は、必要であれば仕事を辞めてでもこの空母に乗りたいと考えています。その程度の覚悟がなければ、海業は成功していかないのではないかと考えています。以上です。</p>
大野委員	<p>私がこの資料を作成しましたが、空母である以上は様々な方が離発着する場所でないといけないと考えています。それこそ覚悟を決めなければ転覆してしまいます。転覆しないためには、海と状況を見るすなわち愛南町との連携の密度を高く保てていることが重要だと考えています。私はこれが海業推進運営委員会に当たると考えています。それぞれ飛行機で離発着する人たちは失敗しても問題ないようにパラシュートを持たせ、覚悟もある程度でいいと考えています。ただし絶対的に覚悟を持って海業に来ている方も必要で、それは責任者や役員だと考えてい</p>

発言者	発言内容
浜辺委員	<p>ます。覚悟とワクワク感はイコールであり、海業では覚悟を決めて発生するワクワク感を生み出してくれるのではないかと期待しています。</p> <p>今の話でいうと、先ほどのグループワークでヤング委員の「自分は関係ないと考えている人が増えており、そのような人々を巻き込んでいきたい」という発言が気になっています。その辺りをもう少し説明をお願いします。</p>
ヤング委員	<p>私は、海業は水産庁や水産課が関わり、全面的に頑張っているというのは理解しています。しかし、以前、商工会という立場から海業に関するアンケートを取った際、「うちは海業には関係ない」という理由で商工業者の回答率が低いことがありました。このような人々の意識を変えなければ共同して事業を進めていくことが難しく、なおかつコネクションを作ることも難しいと考えています。グループワークでは、このような意識を変えていきたいと考え、発言しました。</p>
浜辺委員	<p>ありがとうございました。非常に大事な視点だと感じました。グループワークでは、2グループに共通して伝え方・PR方法を更におもしろくしていきたいという議論がありました。これは、運営委員会でも議論していきたい内容です。このようなことを今回示したグランドデザインのイメージである程度共通認識を作ることが今日の一番のテーマです。これについて「もう少しこのようにしたら良いのではないか」という意見があれば発言してください。深堀委員お願いします。</p>
深堀委員	<p>グランドデザインは根の部分に当たると考えています。私はゆらり内海の管理運営をしていますが、コンセプトは「食を通じてお客様に満足と感動を与える」ことです。リピーターを増やす、人を動かすためには、感動が必要だと考えています。海業の場合、その感動が何になるのか、何をコンセプトにすれば良いのかが現段階では分かりません。また、ヤング委員が言われたように様々な人を巻き込むことも全員が同じようについてくるのかと疑問があります。「北風と太陽」のように強制的に命令しても人は動かないと考えています。自主的に動かす状況を作らなければいけませんが、現段階では非常に難しいと感じて</p>

発言者	発言内容
浜辺委員	<p>います。私の施設は観光施設ですので、外部からの集客を図ることを主としています。今後もその部分に重点を置いて経済効果を上げていきたいと考えています。</p> <p>次に、森委員お願いします。</p>
森委員	<p>今の愛南町が置かれる状況に対して住民は諦めが多く、何をしても駄目だろうと考えている傾向を感じています。この状況の中でランドデザインを作成し、事業を展開する上で共感してもらうためにはどのようにすれば良いのかと考えています。我々も大変ですが、周りをやっ払いこうという思いにさせるにはどうすれば良いのかが肝だと考えています。また、先ほど「誰がやるか」の話がありましたが、「できるかできないか」ではなく「やるかやらないか」の覚悟を持つことが重要だと考えています。以上です。</p>
浜辺委員	<p>ありがとうございました。今回の海業推進会議には、町の中で非常に活躍されているステークホルダーの方にお集まりいただいています。この方々がお集まりいただくことで何か生まれるのではないかという思いもあり、お声掛けさせていただきました。このような中で出てきたアイデアをうまくまとめ、ランドデザインとして昇華させていきたいと考えています。まず、コンセプトの部分では、委員一同からメッセージとして例えば「覚悟」や「未来」という言葉をPRしていくことが重要なのではないかと思います。</p>
大野委員	<p>その動画制作について質問があります。私は以前、スピンオフ会議の様子を動画に収め、編集したことがあります。その会議では、数名が議論している内容を定点カメラで撮影しました。収録時間は約3時間ありましたが、この状態で動画を公開しても誰も見てくれません。その際、パワーワードやパンチラインのような議論していて良いと感じた内容を後から動画を見た際に分かるような工夫を施しました。編集の際はその場面だけをつなげて配信しました。このような取組がランドデザイン作成時の重要なキーワードの要素になると考えていますが、発案者の方はどのように考えられていますか。</p>

発言者	発言内容
前田委員	<p>そこまで考えていませんでした。愛南町や海業に対してどのように感じているかを簡単に発言していただき、その内容を羅列して配信すれば良いと考えています。メンバーも幅広く動画に登場させていただきたいですが、スケジュールもあるので一度で完成させるのではなく、加除式で継続的に増やしていきたいです。また、ある程度増えていくと分類していく必要はありますが、まずは羅列していくだけで問題ないと思います。先ほどのグループワークでは曖昧さを大切にするという意見がありましたが、何かに基づいて議論するとどうしても窮屈になるため、愛南町に対する思いを否定的な意見も含めてまとめていくと良いのではないかと考えています。私自身100人中50人の了解がなければやれないのかということではなく、一人でも共感すればプロジェクトを始めて良いと考えています。その代わり駄目だと思い失敗して辞めてもいいような関わり方ができれば、自分事化して何か始めようとする人たちが増えてくるのではないかと考えています。場合によってはマイナスイメージの共感者を集め、それを抑えるのではなく貴重な意見として紹介していくことも必要だと思います。</p>
後藤委員	<p>私の勝手な解釈ですが、日本の食料自給率は低く、これから地方の人材が更に流出して産業そのものが駄目になっていく可能性が非常に高いです。先ほどのグループワークでは、澤近委員から「既に一部の企業では規模を縮小しながら経営している」という発言もありました。このような状況の中、水産庁が愛南町を海業のモデル地区として選定したのは、5年後10年後という短い期間の話ではなく、更に長い期間地域を活性化させ、人を呼び込み、産業を継続していける町にして欲しいという期待があるからだと考えています。何か覚悟を持って取り組むことは重要ですが、もしかするとこのような大きなミッションをいただいているのかもしれないというのが海業の根幹にあるのではないかと考えさせられます。このように考えると、とにかくここで育つ子供たちが愛南町の魅力を知り、この町に残りたいと思ってもらうことは必須です。南予水産研究センターを卒業した学生たちも愛南町に魅力を感じてくれていますので、決して悲観的なことばかりではないと考えています。</p>
浜辺委員	<p>ありがとうございました。それでは時間になりましたので、</p>

発言者	発言内容
	<p>全体討論を終了します。今日の議論を踏まえ、運営委員会で具体的なグランドデザインを作成していきます。よろしくお願いします。</p>
<p>濱座長</p>	<p>皆様、活発な議論ありがとうございました。最後にその他の連絡事項についてお伝えします。まず、株式会社価値総合研究所からお知らせがあります。</p>
<p>木村氏</p>	<p>価値総合研究所の木村と申します。今回、愛南町の海業は、水産庁のモデル事業として採択された取組です。そのため、水産庁から海業の計画を作るように要請されています。今日はグランドデザインについて議論されましたが、このような進め方も含めて愛南町の海業の計画書として作成していこうと考えています。報告書は水産庁から公開される予定です。引き続きよろしくお願いします。</p>
<p>濱座長</p>	<p>次に田中(純)委員からお知らせがあります。</p>
<p>田中(純)委員</p>	<p>10月27日に情報交換会を開催しましたが、3月下旬にも情報交換会を開催する予定です。御都合が合えば、是非御参加ください。</p>
<p>濱座長</p>	<p>次に、海業推進委員の一員である関根委員が本日をもちまして地域おこし協力隊の任期満了となり、めでたく御卒業されます。今後の活動について一言いただきます。</p>
<p>関根委員</p>	<p>お時間をいただきありがとうございます。私は東京から一人で移住して、この3年間本当にワクワクしながら楽しんで活動を終えることができました。自分が本当に楽しいことをしていきたい、愛南町の魅力を広めたいという思いで、町内の食材を使用して作ったカレーやYOASOBIマップ、中浦の母屋を活用した海を体験できるようなアクティビティを企画するなど地域を巻き込んだ活動ができたと考えています。今後はまず、お金がないので、あまりお金をかけずに活動をしていくことは決めています。また、一人ではできないことも私の思いに共感していただける町民の方々が多くいますので、その方々を巻き込んだ活動をしていきます。もちろん海業にも通ずる部分が多</p>

発言者	発言内容
濱座長	<p>くあり、海業推進委員の一員として活動を続けていきたいと思 いますので、これからもどうぞよろしくお願ひします。</p> <p>ありがとうございました。最後に、清水から連絡事項をお伝 えします。</p>
清水室長補佐	<p>2点お伝えさせていただきます。1点目、事後アンケートを 配布させていただいています。こちらはグランドデザイン等 に関する意見収集の役割もありますので、確実な御提出をお願ひ します。2点目、次回、今年度最後の海業推進会議については、 3月13日(水曜日)又は14日(木曜日)に開催させていただきます 。現時点で御都合が悪い日程がありましたら、お近くの職員 に申し出てください。また、運営委員会について、第5回の海 業推進会議までに3回ほど開催する予定です。日時は改めてお 伝えさせていただきます。本日の配布資料と簡単な議事概要は、 後日公表させていただく予定です。本日は御参加いただき誠に ありがとうございました。</p>